

第5期 麻生区区民会議 第3回全体会議

- 1 開催日時 平成27年3月2日（月）午後3時00分～午後4時06分閉会
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]
石井（郁）委員、石川委員、植木委員、上野委員、岡倉委員、小尾委員、金光委員、志村委員、白井委員、菅野委員、高倉委員、高橋（慶）委員、林委員、宮本委員、山田委員
(欠席) 石井（よ）委員、梶委員、高橋（克）委員、吉垣委員、横田委員
[参与]
勝又参与
(欠席) 雨笠参与、木庭参与、月本参与、花輪参与、山崎参与、相原参与、吉田参与
[事務局]
鈴木課長、白石担当係長、藤江、麻生、佐藤
[関係者]
多田区長、中山副区長、安藤区民サービス部長、
浅見保健福祉センター所長（医監）、大西保健福祉センター副所長、
小林こども支援室長、杉山総務課長、中村地域振興課長、
猪瀬生涯学習支援課長、三枝危機管理担当課長
- 4 傍聴者 1人

第3回麻生区区民会議

日 時 平成27年3月2日(月)

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時00分開会

1 開 会

金光委員長 定刻になりましたので、これより第3回麻生区区民会議を開催したいと思います。

今日は、梶委員、高橋克司委員、石井よし子委員が欠席になっております。そのほか、まだお見えになっていない方がいらっしゃるのですが、連絡を受けておりませんので、もうしばらく待っていきたいと思います。

各部会でそれぞれ問題抽出等がされまして、ある一定の方向で、どのような方向で進むかということもそれぞれの部会の中で目鼻がついてきたのではないかと思います。あとはさらに審議を進めて、自分たちの出した問題をさらに絞り込みをして、その裏づけの調査、あるいは聞き取り調査という形の段階へ進んでいくのではないかと思います。日時はあっという間に過ぎて、3月に入ってしまった。来年、平成28年度の6月までにある程度の結論を出すという形のスケジュールで進んでいく過程になりますけれども、皆さん大変お忙しい中、十分審議を進めて、いい結論が出ることを期待しております。

2 議 事

金光委員長 それでは、本日の議事並びに資料について事務局より確認をお願いしたいと思いますので、よろしくをお願いします。

事務局 それでは、配付資料の確認をさせていただきます。

一番上が本日の会議の次第でございます。次に、資料1として、席次表、資料2として、第5期麻生区区民会議委員・参与名簿、資料3として、若い世代が住みやすいまちづくり部会の調査審議状況、資料4として、市民活動・地域活動の活性化部会の調査審議状況、資料5として、区民会議ニュース(案)、資料6として、第5期区民会議スケジュール(案)、参考資料1として、第2回全体会議の議事録でございます。あと、チラシとしまして、「かがやいて麻生ストレッチ体操教室」となっております。以上でございますが、資料に不足等はございませんでしょうか。よろしいですか。

次に、本日の議事について確認させていただきます。次第をごらんください。2の議事といたしまして、2点についてご審議をお願いいたします。

(1) 第5期麻生区区民会議調査・審議課題等について、(2) としまして、第4回以降の全体会議の開催日程についてでございます。よろしくをお願いいたします。

金光委員長 どうもありがとうございました。それでは、早速議事に入りたいと思いますけれども、それに先立って、第2回企画部会において、部会長並びに副部会長が選出されましたので、部会長、副部会長に一言ずつご挨拶をお願いしたいと思います。まず最初に、高倉部会長、よろしくお願ひいたします。

高倉委員 このたび、企画部会長を務めさせていただくことになりました、高倉でございます。運営会議の運営が円滑にいくよう、微力ながら頑張っていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。(拍手)

金光委員長 どうもありがとうございました。

それでは、菅野委員、よろしくお願ひします。

菅野副委員長 副部会長の菅野です。部会との連携がうまくいきますように務めてまいりますので、よろしくお願ひいたします。(拍手)

金光委員長 どうもありがとうございました。

(1) 第5期麻生区区民会議調査・審議課題等について

ア 若い世代が住みやすいまちづくり部会の検討経過及び意見交換について

金光委員長 それでは、早速、議事に入らせていただきます。

まず第1に、第5期麻生区区民会議調査・審議課題等についてであります。各部の検討経過についてご報告お願ひしたいと思います。

まず初めに、若い世代が住みやすいまちづくりの部会の白井部会長から、検討過程報告をお願ひしたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

白井委員 それでは、若い世代が住みやすいまちづくり部会の現在までの調査・審議状況というところで、資料はお手元の資料3を見ていただければと思います。

これまでに3回部会を開催いたしまして、ここまで意見がまとまってきたというか、一応方向性がここに示されております。まず、若い世代が住みやすいというところで、背景ですけれども、なぜこういう話になったかという、麻生区、これは川崎市もそうでしょうし、あるいは日本全体がそういう方向に行っておりますが、少子高齢化ということで、今後ますますそういった傾向があると、老年人口が35%ということで、この地域も顕著にそういうことが見えてきている。もう1つの背景としては生産年齢、いわゆる20代、30代、40代の人々が人口もだんだん減っているのですけれども、この地域も高齢化を迎えてきているということがあって、これでは地域が活性化することにはならないだろうということで、この辺が背景にありまして、この問題が浮かび上がってきました。

若い世代というのはどういう人だということで、対象になる年代ですけれども、子育て世代、これが生産年齢ということもありますが、それから、大学生や未就学児、小中学生、高校生といろいろなターゲットがあると思うのですが、この辺を全てうま

くできるかどうかというのが今後あるのですが、こういう対象があるだろうと。それから、子育て世代に対しては麻生区は比較的收入が高くて、共働きというよりも、専業主婦の人が多いのかなということで、この辺もこれから調査をして、対象をもう少し絞っていければと。それから、まちの活性化を考える上では生産年齢世代がふえることが重要であろうということで、これが若い世代が住みやすいといういろいろな環境をつくっていかないと、この辺がふえることにはならないだろうということで、対象としてはそういったところです。

方向性として、生産年齢の若い人たちが入り込んでくるようなまちにするためにどういった取り組みが必要かということ、それから、生産年齢世代が積極的に地域にかかわって活動してもらえる環境づくり、それから、どうやったら若い人が住めるようになるのか、住みやすいところとはどういうところかを考えていきたい。4番目に、市民レベル、市民目線で、少子化を食いとめるには必要な取り組みはどうかというように、幾つか方向性が示されております。

括弧の中に、親や子が身近で遊べる場所や機会づくりを考えると、子どもが育てやすい環境とは、多世代がお互いに協力し合い、共生し合うまちというのはどういうものか、それから、高齢者も若い人も巻き込んだコミュニティの形成による子どもの居場所づくりもあわせて方向として考えていく必要があるかなと。

そういった中で、「具体的取組みに関する主な意見」ということで、3つの方向で今まとめつつあるということで、1つは、麻生区の魅力のブランド化とPRが必要だろうということで、魅力づくり、それから、それをさらにPRしていくことが必要だろうということで、これは1つの例なのですけれども、ここに書いてありますように、千葉県の流山市が人口的にも麻生区に比較的似ているような人口構成ということがありまして、いろいろなPR活動をしている。その中には、共働きが働きやすい環境ですとか、いろいろな施策をしているようだけれども、その辺も1つ参考になるかなということです。

それと同時に、麻生区の魅力を今後どうしていくか。芸術のまちづくりが1つあるのですけれども、そのほかに安全で便利で学生が住みやすいとかということ、幾つかここにも挙げられています。ただ、もう1つは、交通の便、これはこれからの話でしようけれども、今後、地下鉄3号線がもし延伸になれば、流山市も比較的交通の便がいいということで人気があるらしいのですが、そういったことでも新百合もそんな方向になるだろうと。ただ、駅周辺の交通量が朝なんかはかなり混むということで、その辺をどうしていくかということもあわせてあるのですけれども、この辺で「麻生区の魅力のブランド化とPR」を分析しながら方向性をつかんでいったらどうかというのが1つあります。

もう1つは、高齢化とともに、住宅地の中が、麻生区は戸建ての住宅がかなり多い

わけですけれども、空き家が見えてきたということで、あるいは高齢の独居の方、そんなこともあるので、この辺の取り組みを今後どうしていくか、その辺に学生のシェアハウスというアイデアもあったり、若い人がそういった住宅に住むという手法がどういった形でできるかということが今後考えられるかなということなのです。

もう1つは、「子ども達とその親などが集う「場」づくり」ということで、子育ての中で子どもたちが遊び場がなかなかないとか、取り組みとして、「わ・わ・わクラブ」とか、「プレーパークを創る会」とか、いろいろあるようですけども、その辺を今後この地域の中でどういう形でつくれるか、その辺をどういうふうに支援できるのかということがありまして、この3つの取り組みが現段階ではあります。

ただ、これを「今後の検討の進め方」の中に具体的に1つないし2つということでしょうけれども、方向として、いきなり1つということではなくて、この辺を少し考えて、ある種の結論をそれぞれ出しながら、方向としては、深くやる部分がそんなに全部ができませんので、ある段階では1つの方向に持っていくかなということを進めようという段階でございます。

方向性はいろいろ例として挙がっていますので、この辺は見ていただければと思います。現状ではこういって、1つの問題について、かなり活発な意見がいろいろ出ているのですけれども、これから調査ですとか、例えば現地がどうなっているとか、あるいはそうは言っても現状はどうかということ、これから資料を収集したり、実際にある部分ではアンケートのようなこともしなければいけないのかもしれないかもしれませんが、そういったことを今議論を進めている段階でございます。

以上でございます。

金光委員長 どうもありがとうございました。今のご説明について何か補足するところ、あるいはさらに意見等がございましたら、どうぞ手を挙げてお願いします。

岡倉副委員長 「麻生区の魅力のブランド化とPR」というところなのですが、先日、芸術のまちづくりということで、音楽大学の講師の先生からいろいろお話を聞いたときに、多摩丘陵というのは魅力なんだよという話をされて、それがすごく印象に残っていますので、ここの魅力というところに多摩丘陵をどういうふうに活用するとか。多摩丘陵というところから、農業との関係なのかな、農業と若い子育て世代の人たちの何かとか、そういうふうなことも検討に加えていただくとか、こういうふうな見方もあるということで、参考にさせていただければと思います。よろしくお願ひいたします。

白井委員 まとめ方の中に、実は意見の中に、緑ということが、麻生区は緑が豊富というか、非常に環境がいいという部分がありますので、ここに漏れているかもしれませんが、入って当然だと思います。その辺は意見にも出ておりました。

金光委員長 そのほかございませんでしょうか。

岡倉副委員長 事務局の方にお伺いできればと思うのですが、先日、タウン紙を見ていましたら、区の27年度の予算案ということで、麻生区の予算が34%増になったという記事が載ってまして、その中身は、子育てではなくて、高齢者と農と環境ということで、そこに重点を置いて34%、27年度は予算が増になったという話を書いてあったのですけれども、もしよければ、27年度の麻生区の予算はどんな感じになったのか、それを今ここで議題になっている若い世代が住みやすいまちづくり部会の参考になるものがあればと思ってお伺いしております。

事務局 麻生区の予算の件ということなのですが、34%増ということはありますが、それはまた別の話で、まず1つは、子育ての部分の予算が多くなったというのは、新規事業として、前回、区民会議の皆さんがやっていただいた子育てフェスタというのがございまして、それを今年度も予算計上、子どものところでしっかりと取りましたので、その分で新規事業ということで予算がついたということで載せています。

農と環境の関係につきましては、去年から黒川のほうで農と環境を生かしたまちづくりということで、明治大学とか、地域の方々、農家の方々と一緒になってやっておりまして、それで、その予算も拡充されておまして、実施計画をつくるということで、拡充になったということで載っております。

全体的に三十何%多くなったというのは、市民館の管理運営費みたいなのが区のほうに権限移譲されて、そこでふえているということでございます。

区長 予算は現在市議会開催中で、そちらのほうに議案として出ていますので、資料は早々に皆さんに、議決後ということになると思いますが、公開されておりますので、お配りしたいと思いますが。34%ふえたというのは、今まで区役所の予算、こういう事業と道路公園センターの予算と、これは区の事業だったのですけれども、権限ということで、市民館の管理運営費も区の予算に一本化されたということなので、数字上の足し算でふえたということなのですね。それで、全体的な予算につきましては、市全体の予算は過去最大の予算になっているのですけれども、ご案内のように、扶助費ですとか、義務的経費が多くなって、あるいは中学校給食ですとか、待機児童対策なんかもやっていまして、実際、区役所が課題解決に使うお金というのはほぼ横ばい程度なのですね。横ばい程度で新しい事業を入れるということなので、既存の事業も大分見直しをさせていただきまして、何とか新陳代謝を図りながら、特に区民会議の中で議論になっていることは主要な課題ということでしっかり続ける、こういう作業なので、実情は余りふえていないのですね。

金光委員長 どうもありがとうございました。

そのほかに何かございますでしょうか。むしろこういう面のことも検討課題に入れてもらいたいというような意見はございますか。——なければ、それでは、今の報告

と意見を踏まえて、若い世代部会の方向性の審議についてはこれでよろしいでしょうか。よろしければどうぞ拍手をもってお願いします。

〔 拍手 〕

金光委員長 どうもありがとうございました。

イ 市民活動・地域活動の活性化部会の検討経過及び意見交換について

金光委員長 それでは、次の議事へ移っていきたいと思います。

市民活動・地域活動の活性化部会の検討経過及び意見交換についてに入りたいと思います。

まず、市民活動・地域活動の活性化部会の岡倉部会長から、検討過程についてご報告をお願いしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

岡倉副委員長 それでは、市民活動・地域活動の活性化部会の調査、審議状況をご報告させていただきます。

資料4をごらんください。ここの表に出ている、これまでの意見、背景、対象、方向性なのですが、これは第1回の企画部会、そして、3回の専門部会でいろいろ出された意見を一覧表にしてまとめてあるという状況でございます。背景につきましては、市民活動・地域活動については、市のほうでも市民活動の支援指針の改定ということで、去年取り組まれています。やはり市民活動というのは、地域の大学や、町内会、自治会でも地域の課題解決に取り組むところも出てきておりますので、そういう状況の中で、市民活動・地域活動をしている団体は幾つぐらいあるのだろう、そして、そのところがどういう情報を発信しているのだろう、それがちょっと混乱しているとか、なかなか伝わりにくくなっているなというふうな背景があると思います。そういう意味で、活性化するためにはということで、実際に活動する担い手づくりが必要であるという背景がございます。地域におけるコミュニティづくりとあわせて、障害者や高齢者等が住みやすいまちづくりが必要であるということが言えると思います。

対象としましては、やはり担い手となる人は、地元の中学生とか、シニアなどが担い手になっていただけるといいねという話がございまして、その中で、そういう人たちが参加しやすい仕組みを考える必要があるということで、誰もが参加しやすい仕組みを考える必要があるということで、対象の人たちをどこにというふうなことの絞り込みまでは行っておりません。

その中で一番議論になったのが、閉じこもりがちの高齢者や障害者の人が外へ出られる機会が必要だねという意見が強く出ておりますので、これからの議論の中で、閉じこもりの高齢者、元気な高齢者も外へ出てきていただきたいのですが、そういう人たちが気軽に出れる仕組みづくりを考えていきたいということになります。

方向性としましては、今、方向性も一緒に話したようなことなのではございますけれども、市民活動の担い手づくり・活性化、地域活動の活性化、障害者・高齢者が外へ出る機会ということで、そういうふうなことを、今の現状を解決して行って、新しい、出やすい環境にしていくことで、市民活動・地域活動を活性化していくことを目標にして取り組んでおります。

真ん中の表なのですが、細いところを見ていただきたいのですが、「区民が市民活動・地域活動に参加」ということで、もう1つの枠が、「活動団体が区民に情報発信」、「活動団体同士の関係」ということで、3つに分けました。これまでの意見をそれぞれ真ん中の「項目・課題」のところなのではございますけれども、この6つの項目に絞り込んであります。1つ目が、「市民活動等への運営支援」、「地域人材の育成と人材活用」、「ボランティア活動の促進」、「シニア等の地域への参加」、「情報発信の環境整備」、「各活動団体の相互理解」という6つに分けてございます。これを優先順位をつけようということで、この6つから3つか4つに絞り込もうということで、前回の第3回の部会の際にその作業を主にやっております。その優先順位をつけるという意味で、優先順位の考え方が配られております。その考え方に基きまして、緊急性と必要性を2つの軸にしまして、マトリックスでやってみましょうということで、前回やっております。その結果なのですが、緊急性と必要性、それが高い課題として、「地域人材育成と人材活用」、これと「ボランティア活動の促進」という、この2つを選んでおります。

その次に必要性を重要視しまして、必要性が高い課題として、「情報発信の環境整備」と「市民活動等への運営支援」、緊急性が高い課題として、「シニア等の地域活動への参加」、緊急性がやや課題として、「各活動団体の相互理解」という形にしております。

その結果、とにかく地域人材の育成と人材活用が大事だねという話になったのですが、これについては、ここの区民会議の第2期のテーマとして取り上げられて提言をされて、それに基づいて現在市民活動推進に向けた地域人材の発掘育成事業として組織を組まれて取り組まれているということですので、その検討経過を注視しましょうということで、一応課題として整理されております。

そういうことから、右のところの審議テーマ（絞り込まれたテーマ）ということで、最優先テーマとして、「ボランティア活動の促進」、優先テーマとして、「情報発信の環境整備」、「シニア等の地域への参加」、全体に係る問題として、「市民活動等への運営支援」ということで、一応こういうふうな形でテーマを絞っております。

現在こういうふうないろいろな意見が出ております。この意見がどういうふうなところから出ているというか、調査分析をしたいと思っております。調査分析をして、その結果、その後、ここに書いてございますけれども、考えられる課題の解決方法の検

討ということで、その仕組みがモデル事業として実施するに値するような仕組みが考えられれば、そういうふうな仕組みをやってみたり、各地域団体との連携も必要ですので、地域団体の市民活動・地域活動の団体の方々がどのように考えていられるかというふうなアンケート調査も今後していくことになると思います。

最後の下の黒い枠のところなのですが、〈審議の過程で考慮すべき事項〉ということで書いてございます。後で読んでいただければと思いますが、こういうふうな考慮すべき事項をそれぞれの委員が念頭に置いて、この後、調査審議を続けていきたいと考えております。

先週、私は宮崎県の西都原というところへ行ってきたのですよ。そこは古墳群がありまして、4世紀、5世紀、6世紀ごろの古墳が三百幾つもあるところなのです。そこに行きましたら、古墳を説明するガイドの方がボランティアだったのです。そのボランティアの方が非常に優秀な方で、どうしてボランティアになったのですかと言ったら、その説明をするボランティア講座みたいなのがあって、その講座を修了して、それからボランティアを始めているのですという話をされていまして、非常にうまい仕組みがあるのだなと思いました。

その後、考古博物館というのがありまして、そこへ行きますとやはりボランティアの方がいらっしやいまして、ボランティアの方が全部案内をしていただけるという、うまい仕組みがありまして、ずっと回って、終わりになりますと、寄附金箱がありまして、そこへ少し寄附をしてきました。そんな体験をしまして、こういうボランティアなら私もやりたいなと思ったりもしまして、ボランティアが気楽に気安くできる環境ができればいいなということで、今後も頑張っていきたいと思っております。

以上でございます。

金光委員長 どうもありがとうございました。今の説明について補足説明、あるいはご意見ございますでしょうか。

ないようですが、私のほうからよろしいですか。

今、市民活動への運営の支援とか、地域の人材育成、こういう形の割合に大きな範囲での言葉が使われていて、ボランティア活動の促進といっても、どの分野のボランティア活動なのか、どの分野を活性化すれば地域の活性が生まれるのかという、その辺のところのねらいがどうも今の説明だと曖昧模糊としていてよくわからないのですね。活動自体のことはよくわかります。なるほどこういう形にすればいいなと思えますけれども、どこへの絞り込みをしながら、運営の支援というのは、市民活動への支援なのか、地域社会への支援なのか、地域社会といたら具体的にはどこの社会を指しているのか、その辺のところをもう少し具体的に絞り込んで説明していただけたらありがたいのです。

岡倉副委員長 今回の委員長からの説明なのですが、そのとおりだと思っております。

今言われたボランティアについても、福祉ボランティアというのもありますし、傾聴ボランティアとか、スポーツボランティアとか、いろいろなボランティアがあるということで、部会のほうでもそういう議論がありまして、じゃ、これから議論を進めていく上で、その部分についても詰めていかないといけないねという話になってございます。

〈審議の過程で考慮すべき事項〉で、「地域活動等の言葉は委員のイメージによって認識が異なるので認識の統一が必要である」ということで、ボランティアという言葉1つとっても、部会の委員の皆様とイメージを共有化していけるようにこれからやっていきたいと思っています。

地域のことなのですけれども、地縁コミュニティ、地縁と知縁、そういうふうな議論も中で出ておりまして、どのコミュニティを対象にしていけば一番効果的かということについてもこれから議論していきたいと考えております。

金光委員長 ありがとうございます。次回の全体会議のときに地域活動の地域というのはどこかというようなものもある程度具体化して、地域に対しての活動というこの地域を具体的な形で、ここを活性化することによって麻生区全体が活性化するのだというような形へ議論を持っていていただいて、もう少し具体的にそれを進めるようなことを考えていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

それ以外に何かございますでしょうか。——なければ、今の報告を踏まえて市民活動についての方向性審議についてこういう形で進めていくということで賛成であれば拍手をお願いいたします。

〔拍手〕

金光委員長 どうもありがとうございました。

ウ 企画部会の検討経過報告及び意見交換について

金光委員長 それでは、次の議題に進めさせていただきます。

それでは、企画部会の過程報告について意見交換をしていきたいと思っておりますので、企画部会の高倉部会長から経過報告についてご報告をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

高倉委員 それでは、私のほうから、これまでの企画部会の検討内容等についてご説明いたします。関連の資料は資料5でございます。

これを具体的に説明する前に、若干お時間をいただきまして、前段として、企画部会の役割等をお話しさせていただければと思います。

まず、企画部会の役割といたしましては、区民会議の運営に関する事、それから、調査・審議課題の整理に関する事、そして、区民会議の広報及び広聴に関する事項を調整していくという役割がございます。今回はこれらの中の広報及び広聴に関

することにつきまして検討いたしましたので、そのご報告をさせていただきます。

まず、基本的なことといたしまして、麻生区での区民会議の認知度は、これまでの過去の委員の皆様方のご努力もありまして、だんだん高くなってきているとはいうものの、平成26年度の川崎市民アンケート調査結果によりますと、26.7%ということでございます。以前はもっとずっと低かったということでございます。それでもやっぱりまだまだ低いかなということでございます。

そこで、第5期の広報・広聴活動といたしましては、第4期と同じようにPR等を含めて進めていくということにいたしました。

その中で、まず第1点といたしましては、区民会議ニュースの発行ということで、これは後ほどご説明いたします。これは審議状況等を随時発信していくということでございます。年に3回から4回を予定しております。主には町会、自治会を通じまして、各世帯に回覧で目に触れていただくという形になると思っております。

それから、広報・広聴活動の第2点目といたしましては、PR活動ということでございます。主には地域情報紙、具体的には「マイタウン」、「タウンニュース」、「メディア・あさお」、それから、市政だよりもそうなると思えますけれども、こういうのがございます。これを活用いたしまして、区民会議の内容を取り上げてもらうように働きかけていくということでございます。4期も同様にいたしておりました。また、麻生区のホームページにも審議内容を掲載するとともに、内容を紹介して、区民の皆様方に例えば今日みたいな全体会議の傍聴をよろしく願いますみたいな呼びかけも行っていくということでございます。

それから、3つ目といたしまして、これは広聴活動になりますけれども、区民会議に対する提案、意見を受け付けるために、提案箱を区役所のロビーに設置するとともに、これも麻生区のホームページで提案、意見を受け付けるということにいたしております。

以上、こういったことが区民会議としての広報及び広聴活動とご理解いただければと思っております。

それで、先ほど申し上げた資料5でございます、今回区民会議ニュースを発行するというご説明いたします。

お手元の資料5で、まずタイトルがございまして、今回、内容をいろいろ企画部会のほうで検討いたしましたけれども、もう既に第5期の区民会議がスタートして半年以上たっているということで、区民会議第5期がスタートしましたというイメージではちょっとおかしいのではないかとということで、直接、「第5期審議テーマが決まりました」というタイトル、内容で書くということにいたしました。具体的なことは皆さん方ごらんになっていただければ結構でございますけれども、先ほどから審議いたしております審議テーマを具体的にご紹介していくということで、若い世代が住みやす

いまちづくり部会、市民活動・地域活動の活性化部会のテーマをここに書いてございます。写真を入れまして、その下のほうに、今回初めてでございますので、区民会議の委員の皆さん方をご紹介しているということでございます。表の面はそういったことでやっていきたいと思っております。

それから、裏側でございますけれども、せっかくでございますし、これまで第4期で取り組んで区長のほうに提言いたしましたこと、また、いろいろ区のほうもやっていただいている部分がございますので、つながりを持たせることも大切だと、継続性を持たせることも大切だという意見もありまして、そういった考え方で2点ほど紹介いたしております。

4期の提言を受けての取り組みということで、まず1点目は、家具転倒防止対策のパンフレットの発行がございます。これにつきましては、何度も申し上げるようですが、4期の安全・安心まちづくり部会の提言の中にございました。それを区のほうで具現化していただいたということで、実際既に配付が行われているところでございます。

それからもう1つは、これも先ほどお話がございましたけれども、あさお子育てフェスタの開催ということで、これも4期の若者が住みたくなる魅力あるまちづくり部会においてモデル事業として実施いたしました子育てフェスタが非常に好評だということで、これを何とか継続していただけないかということで、ことしは区のほうが中心で取り組んでいただくことになりました。もちろん第4期の委員の約束としては、こういう子育てフェスタがあったら区民会議の委員みんな協力するよということも前提でございますけれども、そういったことがございます。ことしの9月13日に子育てフェスタが開催されますよということをご案内いたしております。詳細につきましては、また追って区民の皆様方にお知らせするという、こういった2点を4期の提言を受けての取り組みということで記事にいたしております。

それから、下半分のスペースにつきましては、毎回、区民の皆様方から麻生区の区民会議に対するご意見等も伺っておりますけれども、我々はちょうど第5期審議テーマを選んで、これから具体的なところに入っていかうということでございますので、区民会議に対する意見ということで求めると、ちょっと的外れな意見も出てきた経緯も過去にございますので、今回はテーマについて区民の皆様からご意見を伺おうということで、1番、2番と、各部会のテーマについて何かご意見がありましたらということでスペースをとっております。あと、下のほうはアンケートの属性等を若干調べさせていただくということで、2面のほうはこういう2つの記事で構成していくということで、申しおくれましたけれども、3月16日付で発行したいということでございます。予定といたしましては、今日ご承認いただければ、3月10日に印刷して、あと、3月16日発行ということで、町会、自治会を通じて回覧するという運びにしたい

と思いますので、お諮りしたいと思います。

説明は以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。

区民会議ニュースについて何かご意見、あるいは補足すべきことはございますでしょうか。よろしいでしょうか。——それでは、皆さん方のご承認をお願いいたします。

〔拍手〕

金光委員長 それでは、企画部会のほうで、この印刷、配付についてはよろしく願います。

(2) 第4回以降の全体会議の開催日程について

金光委員長 それでは、次の議事、第4回以降の全体会議の開催日程についてに入りたいと思います。事務局のほうから日程についてご説明をお願いしたいと思いますので、よろしく願います。

事務局 それでは、お手元の資料6をごらんください。こちらに第5期麻生区区民会議のスケジュールということで、28年の最後まで書かせていただいております。既に各部会の日程につきましては、各部会で毎月第何何曜日ということで決めさせていただいておりますが、全体会につきましても、委員の皆様出席率を高めるということで、第8回まであらかじめ日程を決めさせていただければと考えております。具体的には、6月12日、8月21日、11月13日、2月12日、5月13日ということで、いずれも金曜日、時間につきましては、6月のみ、会場の都合で午前10時から、それ以外につきましては午後3時からということで開催できればと考えております。この日程につきましてご承認いただければと考えております。

以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。

今の日程についてよろしいでしょうか。よろしければご承認いただければと思います。

〔拍手〕

金光委員長 ありがとうございました。

(3) その他

金光委員長 それでは、次の議題で、その他の議事についてですが、先日区民会議の交流会が川崎市役所で開催されましたけれども、それについての意見交換をしたいと思います。3月中に区民会議交流会事務局である市民・こども局が交流会の報告書を作成するとのことなのですが、まだそれが間に合わないということなので、皆様の記憶が

新しいうちに、どのような意見がその会場で行われたのかということで、取り組みについて簡単に、この会議に参加された方にお話を伺いたと思います。副委員長のお2人からお伺いしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

まず最初に、菅野副委員長からそれについてのお話をお伺いしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

菅野副委員長 約半数の方が参加されているのですよね。ですから、不足のところは皆さんのほうからまたお話しいたきたいと思います。

まず、市長による「新たな総合計画について」と題しての講演がありました。新たな総合計画の策定というのは、こういう冊子は既に私たちも手に入っていると思いますが、これをさらに市長のほうでこのようなパンフレットをつくりまして、そして、講演されたわけです。「『成長と成熟の調和による持続可能な最幸のまち かわさき』を目指して」という講演でした。

内容については、間違っても困りますので、控えますけれども、特に市長は、将来を見据えて乗り越えなければならない課題の中で、少子高齢化のさらなる進展、人口減少への転換、生産年齢人口の減少、こういうことについて長く時間を割かれたというふうに思います。

それから、最後のところに、地域包括ケアシステムという言葉が使われました。いずれ私たちの部会等の中でもこういう問題が話されるのではないかと、または私たちの生活の中でもいずれこういうことが身近になってくるのかなというふうに感じながら聞かせていただきました。

7区区民会議委員のグループの話し合いですけれども、8つのグループに分かれて、大体各区1人か2人ずつ入って、10名程度のグループで話し合われたのですが、その話題が、幅広い世代が区民会議にかかわってもらうにはどうしたらいいでしょうかという議題なのですね。なぜこの議題が出てきたのかといろいろ私も考えるのですが、1つは、会議委員の年齢構成が60代、70代で約3分の2以上と、30代、40代の方で約1割強というような年齢構成になっている。それがいいのか悪いのかというのは、それで悪いという議論にもならないと思いますけれども、そういうのをもっと幅広い世代の意見を聞いていきたいという思いがあるかと思います。

もう1つは、認知度の問題なんかもあるのですよね。先ほど認知度の問題がありましたけれども、区民会議に対する認知度が、たしか3年ほど前、私が前の会に入ったときには18%ということで、前の委員さんが怒っていましたが、現在は24%、26%というふうに上がってきている。それはやはり昨年度のフェスティバルとか、あるいはフォーラムとか、そういうようなことも含めてだんだんと皆さんの認知がされるようになってきたのではないかと、思うわけですが、幅広い人たちにもう少し意見を聞いていくには、もっと市民に関心を持ってもらうという機会、そ

これは区民だよりなどにこういうようなことを最初からやっている区があるのですね。これは区民だよりに、皆さんが一番最初の会のときに麻生区の区民会議委員としてどのような思いで臨むかというようなことをずっと1人1人お話しされたと思うのですが、その思いをいきなり市民に、私はこういう思いでこの区民会議に参加しますと、ほかの区なんかでは幾つかこういう取り組みをしているのですね。こういうようなことは次の、私も今度出てみようかというような啓発につながるのかなというような思いもあります。皆さん、いろいろな話をしておられましたけれども、私のところでは、年齢構成の問題が一番大きな問題となって取り上げられていたということです。それに対する結論というのではないわけですが、今のように啓発していくようないろいろな方法を考える必要があるのかなというようなところだったと思います。

金光委員長 どうもありがとうございました。

それでは、次に、岡倉副委員長にお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

岡倉副委員長 報告させていただきます。

当日は2月9日だったのですが、駅に行きましたら電車がとまっているのです。びっくりしましてね。向ヶ丘遊園で人身事故があったということで、それで、しばらく待っていたら、新百合まで動きますという話が出てきて、じゃ、新百合まで行こうと思って、新百合で待っていましたら、新百合から動くということで、結局は、少しおくれて、私が入ったときには市長さんがもう話をされているというふうな状況でした。

先ほど副委員長のほうからもお話があったのですが、地域包括ケアシステムという、そういう話をされているところに私が入ったのかなというふうに思っています。早い話が、地域のことは地域で解決しろというふうな話、そういう仕組みづくりをするのかなというふうな印象で話を聞いていました。

その後、私も同じように7区の区民会議の委員の皆さんとの意見交換ということで、幅広い世代が区民会議にかかわってもらうにはどうするのという話で、皆さんの意見交換ということで参加させていただきました。結論を言うと、無理だねというふうな話で、やっぱり無理だよという話がちょっとありました。開催時間を工夫されているところもあって、私のところは6時から開催しているんですよというふうな、働いている人に配慮して6時からやっているんですよ、それでもやはりちょっと厳しいんですよという話も出たりしまして、そのほかに、土日開催したらどうですかという話が出ましたら、ほかの委員の方、土日は勘弁してくださいということで、なかなか難しいなというふうな感じを受けました。

1つできそうだなと個人的に思ったのは、若い人が参加するのは、スマホとかイン

ターネットを使って、間接的にでもいいから、委員ではなくて、委員の何かについて意見を聞くみたいな、そんな仕組みができれば少しはいいんじゃないのという意見が出て、なるほどという形で聞いておりました。

私のほうからは以上です。

金光委員長 どうもありがとうございました。

そのほかに交流会に何人かの方が出席されていますけれども、自分たちのグループではこんなおもしろい議題が討議されたということがございましたら、この場をかりてちょっとご紹介していただければと思います。どなたか。

高橋（慶）委員 課題は2つに決まっております、幅広い世代の方というところですが、これに関しては、各区、具体的に、公募、団体の方の推薦というところがありまして、皆さん大変お忙しい中、区民会議に出席していただいているので、先ほどと同じように、時間等の開催がとても悩むというところもありました。お1人の方は公募で、30代の方でしたので、やはり20代、30代の方の公募をふやしていただけないかという案も出ておまして、私自身も若い世代との交流ということがあり、各区には大学、うちのほうは麻生区は6大学交流ですが、学生さんにも入っていただいたらどうかという、大学生の方に光を当ててみてはというところには、一応賛同する意見もありますが、日程、時間等をどのようにしていくのが課題であるというふうなこともおっしゃって、皆さん、若い世代との交流というところで、希望は今後、25年に向けて持っているという、そういうお話し合いも行われていました。

金光委員長 どうもありがとうございました。

そのほかございますでしょうか。——なければ、それでは、本日の議事は以上になります。

事務局のほうからさらに何かございますでしょうか。

事務局 次回、第4回の全体会議でございますけれども、6月12日と先ほど説明させていただきましたけれども、午前10時ですので、お間違いないようお願いいたします。

以上でございます。

金光委員長 どうもありがとうございます。いつも3時からやっていますので、今度は午前10時ですので、間違いのないようによろしく申し上げます。

それでは、本日お忙しい中ご出席いただきました勝又参与に区民会議並びに今日の会議について何かご助言をいただければありがたいと思います。よろしく願い申し上げます。

勝又参与 勝又光江です。始まってちょっと過ぎてから参加ということになりましたけれども、前回の続きでということで、話は中身は大体わかったのですが、中で、若い世代が住みやすいまちづくりという部会のところなのですが、空き家の利活用というのが中に入っていたのですね。国会のほうでもこのことについては空き家の法案が出た

ということで、川崎市の中でも、私は空き家のところの今回の勉強会の委員になっていたものですから、今日が最後の勉強会だったのです。それで、急いで空き家の状況を川崎市内でもどうなっているのかということ調べて、空き家条例をつくろうという方向で一応意見は一致しているのです。だけど、勉強会は今回で終わって、次の新しく選出されてくる議員の中でこの条例づくりについての検討をしていくというふうに、そこまで決まっていますので、そのところと関連というか、連携できるような、そういうものができるといいなと思いながら今日は聞いておりました。また引き続き、出たいのですが、これ、今後、ずっと金曜日なのですね。金曜日は結構議会との関係で厳しくなってくるのかなと個人的には思って聞いていました。でも、引き続き出てきたいと思っております。ありがとうございました。

金光委員長 どうもありがとうございました。

我々も全体会議ではなくて、部会のほうでも空き家について検討したいと思えます。もし時間があれば、先生のほうからも、それについていろいろご助言、あるいはデータのご提供をいただければ大変ありがたいと思えますので、ひとつご協力のほどよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。これからも引き続きいろいろな形で我々区民会議に対してご協力をいただければ大変ありがたいと思えますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、本日の審議を踏まえて、多田区長よりご挨拶を賜りたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

区長 区民会議の全体会、お疲れさまでございました。

ことしの2つの部会が具体的な絞り込みを行って議論を進めていただいているということをお知らせを受けて、区民の皆様は委員だけあって、いろいろな情報をお持ちで、こうした情報をいただけることが、我々にはありがたく思っています。この2つの部会が子育てですとか、若い世代、地域活動というのは、キーワードが少子高齢化ということが1つ大きな底流にあるのかと思っております。

それで、人口で言いますと、今年の8月に新たな推計が出たときに、以前の推計ですと、麻生区の人口ピークは20万人ぐらいで、今、17万5000なのですけれども、それが2035年だったのですかね。それが新しい推計だと2030年がピークで、ピーク時の人口が18万ぐらいになるということで、人口の増加が鈍化している。麻生区というのは転入がほかよりも少ない、しかし、転出がまたほかよりも少ないということで、その部分が伸びているのですね。転入者も少ないのだけど、転出者はほかと比べてもっと少ない。非常に住みやすい、暮らしやすいまちが実証できるというふうに思っています。

それから、年間の出生数が1400人ぐらいで、お亡くなりになる方が1000人ぐらい、400人ぐらいは自然増があるということですね。全区の推計を見ますと、多摩区は

今がピークで、これから下がっていくような推計なのですね。ちょっと見ましたら、自然増、生まれた方よりお亡くなりになる方が既に多くなっていて、日本の社会の中で自然増がマイナスに転じたというのが1つの大きなインパクトだったのですが、実は隣の区でも始まっているということなのですね。これは人口消滅の可能性のある都市が多くあるという報道がありましたけれども、これに向けては全国的な問題、我が国の問題として、政府のほうでも、地方創生ですとか、あるいはそれに基づいた人や仕事、地方の創生ということで大分力を入れていまして、いろいろなメニューがあります。

とにかく人口減というのが、今でいきますと、2010年ぐらいが1億3000万ぐらいでピークで、50年後が8700万人ぐらい、100年後が4000万台ということで、どんどん下がっていくということなので、そこは地方に創生をしっかりと、東京一極集中をなくす。東京一極集中をなくすのは、東京から地方に移転する人を4万人、それから、地方から東京に来る人を6万人減らす、地方に30万人以上の雇用をつくるということで、一極集中をなくす。Uターン、Iターン、Jターン、そういう方策に交付金を充てるとか、それから、出生率は1.3、これを1.8に上げる。これにはまず若い世代が希望をしっかりと持てるような社会をつくるということで、子育て支援と女性の社会進出。女性の社会進出というのは子育て支援がないとできませんので、そういうところを、若者に希望を持ってもらえる社会をつくることによって1.8ぐらいにする。そうすると、50年後ぐらいに人口が1億人ぐらいで下げどまりする。そうすると、GNPも実質経済成長も1.2%ぐらいに維持できるというような、大変奥の深い基本戦略、総合戦略を今進めております。

この話を区民会議に当てはめると、まさに麻生区の中でこうした話の先取りを行っていただいておりますので、先見性もありますし、また、地域ということでは、地域のくまなくご理解いただいている皆様の情報なので、私ども、いただいたご意見を施策にまとめるという仕事もございまして、大変実のある施策ができるのではないかと期待をしているところでございます。

ちなみに国の基金の活用が一番最初に影響が出るのが、プレミアム商品券というのがございまして、これが26年度の補正予算、市のほうも進めまして、市内で33億円の発行ですね。20%のプレミアムがつく。1000円だと1200円分の買い物ができる。200円分のプレミアムと、それから、発行、印刷費、そういうものが交付金で来るといことなので、これは足元の消費を喚起する緊急対策ということで、26年度補正ですけれども、実際にはこの秋ぐらいに発行できて、年度内に消化するということなので、こんなことも含めて、地域の商店街の活性化ですとかが図ればよいなというふうに思っているわけです。

それと、4月になりますと、役所は人事異動がございまして、このメンバーも、が

らっとかわるか、少しかわるか、わからないのですが、異動などもございます。この区民会議ももちろんですけども、業務は切れ目なくしっかりと展開できるような体制についても私どもも対応してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

以上でございます。お疲れさまでした。(拍手)

金光委員長 どうもありがとうございました。

3 閉 会

金光委員長 以上をもちまして、今日の第3回全体会議を終了したいと思います。どうぞご苦労さまでした。ありがとうございました。

午後4時6分閉会